

### くらしの扉

#### ぬいぐるみも

愛着があって捨てられないぬいぐるみ。きれいにクリーニングしてアジアの途上国の施設で暮らす子どもたちに届けているのは一般社団法人MAST支援会(大阪市)だ。洗濯作業は、大阪市内の障害者就労支援施設に委託し、障害がある人の仕事づくりも目指す。寄贈には、スタッフの渡航費・輸送費・クリーニング代などとして、専用バック(袋)詰め放題1万800円、1体6480円の費用がかかる。現地にはぬいぐるみを一度も抱いたことがないという子どもも多く、大小問わず喜ばれるという。詳細はウェブサイト(<http://e-cps.org/>)。問い合わせは(0120・60・4150)。

#### 古本・DVDで支援

社会問題解決を目指すNPOなどを古本で支援するのが「チャリボン」(<http://www.charibon.jp/>)。運営するのは株式会社パリュープックスだ。読み終わった本やDVDを送付すると、買い取り代金が寄付や募金になる。NPO法人自立生活サポートセンター・もやい、NPO法人難民支援協会など様々な団体が寄付先としてサイトで紹介されており、指定できる。問い合わせは同社(0120・826・295)。

「くらしの扉」は毎週日曜日に掲載します。今回は「別世を快適に」の予定です。ご意見、ご要望はseikatsu@asahi.comへ。

子どもが6年間背負った思いのランドセル。卒業後も捨てられない。賞味期限が近いけれど処分するのはもったいない。そんな品や食品を途上国の支援や国内で生活に困っている人のために活用する。そんな取り組みがあります。



子どもが6年間背負った思いのランドセル。卒業後も捨てられない。賞味期限が近いけれど処分するのはもったいない。そんな品や食品を途上国の支援や国内で生活に困っている人のために活用する。そんな取り組みがあります。

### 捨てないで 使う人いるから

「プレゼントでもらったものの使っていない品や、実家の骨董品。賞味期限が迫ってきた缶詰やレトルト食品、お中元やお歳暮で食べ切れなかった食品。これら

賞味期限が迫ってきた缶詰やレトルト食品、お中元やお歳暮で食べ切れなかった食品。これら

賞味期限が迫ってきた缶詰やレトルト食品、お中元やお歳暮で食べ切れなかった食品。これら

く、同グループの佐藤幸子さんは「青空教室でランドセルを机がわりに勉強している子どもたちと話をし、海外輸送経費などとしてランドセル一つにつき800円の寄付が必要。ノートや鉛筆など未使用の学用品を詰め、贈ることもできる。受け付けは期間限定で今回は来年3月10日～5月31日の予定。学用品の寄贈は通年で可能だが、詳しくはジョイセフに問い合わせを。

「家族で長年眠っているものが、プレゼントでもらったものの使っていない品や、実家の骨董品。賞味期限が迫ってきた缶詰やレトルト食品、お中元やお歳暮で食べ切れなかった食品。これら

賞味期限が迫ってきた缶詰やレトルト食品、お中元やお歳暮で食べ切れなかった食品。これら

## 家にあるもので貢献

思い出のランドセル  
未使用のノートや鉛筆

横浜からコンテナ船に積みパキスタン経由で運ぶ

アフガニスタンの子どもたちの手元に

国際協力NGOジョイセフ  
<http://www.joicfp.or.jp>  
03-3268-5877(市民社会連携グループ)  
海外輸送経費の寄付が必要(ランドセルなら一つ1800円)。ランドセルは取集期間が決まっています。今回は3月10日からの予定。  
学用品は通年受け付け

写真はジョイセフ提供

賞味期限が1か月以上ある

缶詰  
レトルト食品  
お中元やお歳暮の食品

家で眠っている

- ブランドバッグ
- アクセサリ
- 時計
- カメラ
- 骨董品など

生活が苦しい個人・家族(国内)に配布・配送

買い取り額をアジアの教育支援(学校や図書館の運営)に

セカンドハーベスト・ジャパン  
<http://2hj.org>  
03-5822-5371  
宅配便の費用は寄付者が負担

シャンティ国際ボランティア会  
<http://sva.or.jp>  
03-6457-4585  
取り扱い可能な品数が多いのが特徴

グラフィック・山田英利子